講義名	教養特講Ⅱ（都市・地域計画へのいざない）					授業形態	
担当教員	植松　宏之	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 ４時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング	

主題と概要

専門科目である「都市・地域計画」では、都市計画法の法制度をベースに都市のマスタープランなどの基本的な考え方を学習することになるが、この授業では、地域のまちづくりが過去にどのように作られ、将来どのような方向に進むのかを学ぶ。地域まちづくりは、交通、防災、観光、飲食、住まい、歴史文化など幅広い社会経済活動により成り立っており、「都市・地域計画」の骨格にあてはめながら講義を行う。特に受講生が理解をしやすくする工夫として、国内外で都市開発事業が実施されている最新の事例を紹介しながら、専門知識の用語も解説し、地域まちづくりへの関心を深める授業とする。

到達目標

①「都市・地域計画」の基本的な全体骨格を理解することができる
②国内外で取り組まれている地域まちづくりの活動内容を理解することができる
③大都市や地方都市における将来の地域まちづくりの方向性を理解することができる。

提出課題

授業で取上げた国内外の事例紹介から都市地域計画の専門用語などの知識を学び、理解度を確認するために、「課題演習」や「確認テスト」を行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業の最後には、講義の振り返りを行い、学習の理解度を確認します。期中に実施される「課題演習」「確認テスト」の準備として、授業に集中して、配布された資料を熟読すること。

評価の基準

平常点40%（課題演習など）、確認テスト60%（前半と後半に実施）とします。定期試験は行いません。
課題演習や確認テストを提出しない受講者は、ゼロ点となります。

履修にあたっての注意・助言他

教科書

・使用しない.				

参考図書

その他

基本的には、講義の前に講義用の資料をRYUKA　POTALを通じて配布する。
講義の際、印刷物を配布しませんので、自分で印刷するなど準備をすること。（ネットで資料を見ることもできます））
参考WEB①：「全国エリアマネジメントネットワーク」　https://areamanagementnetwork.jp/
参考WEB②：「国土交通省官民連携まちづくり」　https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000047.html

授業計画

第１回　大都市の地域まちづくり　事例①首都圏・大丸有地区　テーマ「国際金融都市」
第２回　大都市の地域まちづくり　事例②首都圏・虎ノ門地区　テーマ「ビジネス交流拠点」
第３回　大都市の地域まちづくり　事例③首都圏・渋谷地区　テーマ「クリエイティブ都市」
第４回　大都市の地域まちづくり　事例④中部圏・名古屋駅前地区　テーマ「リニア新幹線」
第５回　大都市の地域まちづくり　事例⑤関西圏・梅田地区　テーマ「イノベーション都市」
第６回　大都市の地域まちづくり　事例⑥北海道・札幌地区　テーマ「地域文化都市」
第７回　大都市の地域まちづくり　事例⑦九州・博多天神地区　テーマ「アジア商業都市」
第８回　大都市の地域まちづくり　（前半講義の振り返りと確認テスト）
第９回　地方都市の地域まちづくり　事例⑧北陸地方・高山市駅前　テーマ「コンパクトシティー」
第10回　地方都市の地域まちづくり　事例⑨北陸地方・福井市駅前　テーマ「北陸新幹線開通の期待」
第11回　地方都市の地域まちづくり　事例⑩中部地方・豊田駅前　テーマ「中心市街地の活性化」
第12回　地方都市の地域まちづくり　事例⑪関西圏・京都三条通り　テーマ「地域景観」
第13回　海外のまちづくり　事例⑫米国・ニューヨーク
第14回　海外のまちづくり　事例⑬豪州・メルボルン
第15回　地方都市等の地域まちづくり（後半講義の振り返りと確認テスト）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義内容への理解に応じて、WEBなどを利活用して、地域のまちづくり活動を毎週４時間程度の復習を行い、都市・地域計画の理解を深める。
また、講義で学んだ都市を訪問するなどして、地域のまちづくり活動や都市の景観などを学ぶことを期待する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

・知識を知恵に転換することができる人材を育てる
・官民（仲間）が協力して、社会の課題を成し遂げられる人材を育てる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。都市開発業務の実績を活用して、分かり易く「都市地域計画」の基礎について解説をする。

備考